



# わかば

流山市立北部中学校  
平成30年12月20日  
生徒数 494名

## 『2019年に向かって』

校長 金子 邦晃

『平らかに成る』ことを願いとした元号『平成』の時代はまもなく幕を閉じます。今年の世相を表す漢字一文字が『災』となったことは皮肉ですが、激動の『平成』をある意味表しているのかもしれない。平成30年の間には、多くの大災害がありました。阪神大震災（平成7年）、東日本大地震（平成23年）、最近では熊本地震、北海道胆振東部地震など。豪雨災害は、毎年のように起きています。

また社会、経済情勢の変化、情報化社会の進展、流行のめまぐるしい変化など、平成の時代はまさに激変・進化の時代でした。学校を取り巻く教育環境も大きく変わりました。平成の始まりの頃は、生徒数の急増期がピークを過ぎ、少しずつ減少していく時代に入っていました。『ゆとり教育』が20年前に叫ばれ、その10年後には『脱ゆとり』が叫ばれます。教育の考え方が左右に大きく揺れる時代でもありました。

平成という時代の波で育った今の中学生にはもちろんのこと、昭和から平成まで経験してきた大人であっても、この先の世の中がどう変わるのか、どこまで成長するのかを予想することは大変難しいことです。でも2019年を迎えようとしている今、これからの時代の変化と自分の将来を深く想像しながら、節目になる年の初めに目標を立てることは、未来に向けた一歩を力強く歩み出すために大変意味のあることだと思います。ぜひ実行してほしいと思います。

『正月飾り』が店頭に並んでいます。門松や鏡餅、しめ縄飾りなど様々です。それぞれのいわれがあるわけですが、調べてみるのも日本の伝統文化に触れる良い機会です。玄関に飾るしめ縄飾りを手作りしたことがあります。そんなに難しいものではないです。そのしめ縄飾りにはいろいろな縁起物を飾ります。わら・稲穂（今年の豊作を感謝し来年の豊作を願う）、扇（末広がりに家の繁栄を願う）、橙・みかん（代々繁栄を願う）、裏白（シダ、裏まで白い気持ち）、ゆずり葉（家系を絶やさない願い）などです。その飾りの中のゆずり葉は、普通の落葉樹の葉と違い、古い葉は新しい葉が成長してから、席をゆずるように落ちるところから命名されています。つまり常に木々を葉で覆い、緑を絶やさず枯れ木になる時期をつくらないのです。

学校に当てはめてみます。三学期は成長した2年生・1年生に席をゆずり、3年生が卒業を迎えます。ゆずり葉のように学校は高められた伝統や文化を受け継いでいきます。2年生は、すでに実質的な学校のリーダーとして、1年生は後輩を迎える中堅学年として行動していきましょう。

冬休みには十分な鋭気を養い、3学期は新しいチャレンジへ

「希望に燃え 自ら学び 共に高め合う“流北”」です。